



## 国際交流活動2024年

(国際展開担当理事) 中野 秀雄

2024年1月より12月までに行われた国際交流活動について報告する。

■**生物工学アジア若手賞** 本年度は21回目となり、中国の王剣橋(Jianqiao Wang) 博士(広州大)に授与された。受賞対象となった研究題目は、「Studies on the biodegradation of xenobiotics (recalcitrant environmental pollutants and lignin) by white-rot fungi」で、受賞講演は大会2日目の午後に行われた。王剣橋博士は、静岡大学農学部平井浩史教授のもと、白色腐朽菌を用いたバイオレメディエーションおよびバイオリファイナリーについて研究を展開し、2014年に博士学位を取得した。その後特任助教、JSPS特別研究員として同研究を継続し、在日中に9報もの論文を発表している(うち8報が筆頭著者)。現在は中国・広州大学教授として、異物代謝能に優れた白色腐朽菌による環境汚染物質やリグニンの分解など、主にバイオレメディエーションの研究を展開しており、独立後に12報の論文を発表するなど、顕著な業績を挙げている。同氏の今後の研究における益々のご発展と当学会との連携を期待したい。



Jianqiao Wang教授

■**生物工学アジア若手研究奨励賞 (DaSilva Award)** 該当者なし

■**Korean Society for Biotechnology and Bioengineering (KSBB), Biotechnology and Biochemical Engineering Society of Taiwan (BEST) との人的交流** 2024年4月17日(水)～19日(金)に昌原国際コンベンションセンターで開催されたKSBB春季大会では、2023年度学会賞受賞者である堀克敏先生(生物工学功績賞・名大)と徳田昌文先生[生物工学奨励賞(江田賞)・東農大]、また、9月25日(水)～27日(金)に済州国際コンベンションセンターで開催されたKSBB秋季大会では、吉野知子先生[2023年度生物工学奨励賞(斎藤賞)・農工大]、井上謙吾先生[2023年度生物工学奨励賞(照井賞)・宮崎大]、および、森田友岳氏[2020年度生物工学奨励賞(斎藤賞)・産総研]が講演を行った。6月21日(金)～23日(日)にNational Penghu University of Science and Technology(台湾澎湖県馬公市)で開催された2024 BEST Conference International Symposiumには、本田孝祐先生(庶務理事・阪大)と筆者が参加し、招待講演を行った。

第76回日本生物工学会大会2日目のKSBB-BEST-SBJジョイントシンポジウム、「第一部：未来を拓く：エンジニアリング・バイオロジーの進歩(Pioneering the Future: Advances in Engineering Biology)」および「第二部：次世代の波をつくる：エンジニアリング・バイオロジーの若きイノベーターたち(Shaping the Next Wave: Young Innovators in Engineering Biology)」では、KSBBから5題、BESTから2題の招待講演が行われた。KSBBからの招待講演者は、Sung Kuk Lee教授(UNIST)、Hyun Ho Lee教授(Myongji University)、Jonghoon Choi教授(Chung-Ang University)、Jong Uk Lee准教授(Dongguk University)、Jiyoon Bu准教授(Inha University)で、BESTからの招待講演者は、John Chi-Wei Lan教授(Yuan Ze University)とEthan I Lan教授(National Yang Ming Chiao University)であった。

■**KSBBとBESTとの交流会議** 2024年10月29日(火)にオンラインで、KSBBのDong-Myung Kim教授(次期会長、Chungnam National University)、Hyun Ho Lee教授(庶務、Sogang University)、Jong Wook Hong教授(国際担当、Hanyang University)、Jeong Hyun Seo教授(国際担当、Yeungnam University)を交えて交流会議を開いた。本会からは、清水副会長、青柳副会長、尾高(国際展開)理事、竹山(国際展開)理事と筆者が出席した。交流会議では第77回日本生物工学会大会(2025)にKSBBより5名招待し、KSBB、BEST、SBJの3学会合同シンポジウムを開催することに関して同意を得た。2024年11月1日(金)には、BESTのJohn Chi-Wei Lan教授(副会長、Yuan Ze University)との話し合いの場が持たれ、本会からは、清水副会長、青柳副会長、梅津(国際展開)理事、尾高(国際展開)理事、竹山(国際展開)理事と筆者が出席した。3学会合同シンポジウムの開催、来年も2名の招待講演者をそれぞれの年次大会に派遣することが決まった。

■ Thai Society for Biotechnology (TSB), Philippine Society for Microbiology, Inc. (PSM), Indonesian Biotechnology Consortium (IBC), Indonesian Society for Microbiology (ISM) との交流 昨年度に締結したMOUに基づき、第76回日本生物工学会大会(2024)には、タイTSBのPrasit Palittapongarnpim教授(Mahidol University)とMontarop Yamabhai教授(Suranaree University of Technology), また、フィリピンPSMのUrsela Bigol氏(DOST)をお招きし講演を行っていただいた。大会3日目にはランチミーティングを行い、今後の交流活動について意見交換が行われた。

2024年7月3日(水)~4日(木)に開催されたThe International Conference and Workshop on Biotechnology (ICW Biotech) 2024では、インドネシアIBCからの招待で青柳秀紀先生(副会長・筑波大)がオンラインで基調講演を行った。

The 36th Annual Meeting of the Thai Society for Biotechnology and International Conference (TSB2024) [11月14日(木)~16日(土), アユタヤにて開催]に園彰吾氏(白鶴酒造)と筆者, また, 14th International Symposium on Indonesian Society for Microbiology (ISISM) 2024 [12月3日(火)~4日(水), マランにて開催]には中島豊先生(庶務理事・広島大)が参加し, それぞれ招待講演を行った。



TSB, PSMとの交流会議にて(敬称略)  
左から, Ursela Bigol, Montarop Yamabhai, Prasit Palittapongarnpim, 藤山, 梅津, 本田, 筆者。



第76回日本生物工学会大会のKSBB・BEST招待講演者の歓迎会にて(敬称略)。前列左から, 大河内大会実行委員長, 松浦, 筆者, Hyun Ho Lee, Sung Kuk Lee, 三浦, 後列左から, 相馬, John Chi-Wei Lan, 細川, Jonghoon Choi, 田中, 清水副会長, 吉田, 本田, Jiyeon Bu, 梅津, Jong Uk Lee, 伊藤(事務局)。